

会 議 録

会議名称	令和2年度 第1回 庄内町子ども・子育て会議
日 時	令和2年6月24日（水）午前10時00分～11時30分
会 場	庄内町役場 B棟2階 会議室1
出席者	<p><委員></p> <p><u>第2条関係</u> 小林裕子会長、太田ひろみ副会長、高梨美和委員、五十嵐知穂委員、阿部文彦委員、飯淵美穂子委員、安藤美江委員、渡会武司委員、今井聡委員、五十嵐富夫委員、渡邊綾子委員、我妻小巻委員</p> <p><u>第6条関係</u> 庄内町立余目第四幼稚園 園長 後藤郁子 庄内町立狩川保育園 園長 日下部美恵 庄内町教育課 主査兼学校教育係長 渡部恵子 庄内町保健福祉課 主査兼健康推進係長 齊藤真奈美</p> <p><事務局> 庄内町子育て応援課 課長 佐藤秀樹 課長補佐兼子育て支援係長 高橋亨 主査兼子育て支援センター係長 本間千賀子 子育て応援係 齋藤裕美</p>
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 あいさつ 4 委員紹介 5 会長及び副会長の互選について 6 報告 (1) 第2期庄内町子ども・子育て支援事業計画について 7 協議 (1) 令和元年度子ども・子育て支援事業計画の実績について (2) 民営認定こども園移行実施方針（案）について (3) その他 新型コロナウイルス感染症対策について 8 その他 子育て支援センター施設見学 9 閉会

会議の内容及び主な発言

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
委員代表 高橋美和委員
- 3 あいさつ
庄内町長 原田真樹
- 4 委員紹介
会議資料「庄内町子ども・子育て会議委員名簿」
- 5 会長及び副会長の互選について
会長 小林裕子
副会長 太田ひろみ
- 6 報告
(1) 第2期庄内町子ども・子育て支援事業計画について
事務局から配布資料「第2期庄内町子ども・子育て支援事業計画 概要版」を用いた説明

質疑・検討事項等

(阿部文彦委員)

- ・概要版7ページの「ファミリー・サポート・センター事業」について

(事務局本間)

- ・保育園に通園していても開所していない時間、夜間や日曜日など家庭で保育が難しい場合、援助を希望する側（お願い会員）と、それを支援する側（おたすけ会員）どちらも会員制を設けており、支援センターで相互の援助活動に関する連絡や調整を行う事業。

7 協議

- (1) 令和元年度子ども・子育て支援事業計画の実績について
事務局から会議資料「庄内町子ども・子育て支援事業計画実績と成果」を説明
- (2) 民営認定こども園移行実施方針（案）について
事務局から会議資料「庄内町立川地域の民営認定こども園移行実施方針(案)」を説明

質疑・検討事項等

(小林裕子会長)

- ・資料1ページの文中に「令和元年7月に市内プロジェクトチームを立ち上げ、保育園と幼稚園、小中学校が近隣に整備されている立川地域の今後の幼児教育・保育のあり方について、民営認定こども園に移行した場合のメリットやデメリット…」とあるが、デメリットとは、何かあるのか。

(事務局高橋)

- ・公立から民営になることで、町の保育方針や教育方針がきちんと正確に伝わるかが不安な部分でデメリット。町の方針を協定書に盛り込むことで対応する。

(事務局課長)

- ・教育方針や小学校への引継ぎ、虐待や気になる子への対応など、町や教育委員会でやっている事が民間になることで薄れるのではないかというデメリット。
 - ・保護者サービスに偏る恐れがあるのではないかというデメリット。
 - ・公立から民間へ移行するという事で、職員が変わり、子どもや保護者に不安感があるのではないかというデメリット。
 - ・地域との連携が薄れるのではないかというデメリット。
- 以上のような点がプロジェクト会議の中で出てきたが、ほかの自治体の認定こども園を見学・視察等させてもらい、事前に町と移管先法人とで協定を結び、具体的内容を明記する事で、デメリットを解消できると判断した。

(五十嵐富夫委員)

- ・資料4ページに「入園条件」があり、学区を越えた希望も出てくると思うが、学区制度を継続するのか統廃合するのか長期的な考えはあるのか。

(事務局課長)

- ・現在、狩川保育園の状況は、立川地域だけでなく、第四学区からも一定のお子さんが通園している状況にある。民間になった場合は、4～5歳児になった時に自由に選択できるようにする内容となっている。まだ町全体では、整理されていないためあくまでも立川地域の認定こども園に関する部分で考えている。

(高梨美和委員)

- ・資料3ページに「発達に特別な支援を要する児童の保育」とあるが、認定こども園になった場合の対応について

(事務局課長)

- ・現在、町立保育園、私立保育園、町立幼稚園すべてで受け入れを行っている。経営主体が変わっても体制に変わりないよう、今同様継続していく。

(3) その他

新型コロナウイルス感染症対策について

事務局から会議資料「子育て関連の新型コロナウイルス対策」を説明

質疑・検討事項等

(飯淵美穂子委員)

- ・お金を配ればいいのかではなくて、実際に新型ウイルスに対する支援が見えない。第二波、第三波に備え、マスクや消毒液等の確保等、どういう風に取り組んでいくのか。

(事務局課長)

- ・町として対策本部を設置し、いろいろ考えていることはあるが、子育て関連で今後の対策について整備されていないため、今後の検討課題とさせていただきたい。

(齊藤真奈美保健師)

- ・高齢者へのマスクの配布や妊産婦の支援等を行っているが、さらなる感染防止対策について検討していく。

8 その他

- ・3～4月時の学童保育の状況について（渡邊綾子委員より）

新型コロナウイルス対策として、学童の玄関先で利用者全員から体温測定を実施した。

手の消毒やトイレのノブ、おもちゃ、畳、床、台所など、毎日すべて消毒作業を行った。本来19時までの開所時間を18時30分と短縮し、支援員の話し合いの時間を設けた事で連携がとれる体制となった。

4月からは全員マスク着用を義務づけ、職員が感染すればお願いされても学童を開けることができなくなることから、自分の身を守るため、徹底した管理を行ってもらった。

今後、第二波、第三波が来た時、支援員をどう確保すればよいかという不安がある。

- ・子育て支援センター施設見学

9 閉会